

「脳卒中を含む循環器病対策の評価指標に基づく急性期医療体制の構築に関する研究 Close The Gap-Stroke J-ASPECT Study」のお知らせ

脳卒中、心筋梗塞、心不全などの循環器病は日本の死因の25.5%、国民医療費の約20%を占め、健康長寿社会を達成する上で大きな課題となっています。欧米では医療の質の測定は、従来の死亡率などの指標とともに評価することが主流となっており、さらに施設の必要設備、スタッフ数、診療を行う最低必要症例数などを定めた指標を検討することも多くなっています。これらの指標は臨床指標・Quality Indicator(QI)と呼ばれています。一方日本ではこのような取り組みは未だ整備されておらず、地域拠点病院の認証も開始されていません。現在脳神経外科学会、脳卒中学会では大規模なデータベースを構築しています。この大規模データベースを活用し、脳卒中を含む循環器病の医療の質を包括的に評価するQIを策定し、本邦の脳卒中、急性循環器疾患の救急搬送の実態を検証する研究が計画され当院も参加しています。

＜研究の目的＞脳卒中を含む循環器病の医療の質を包括的に評価する臨床指標を策定することです。

＜調査対象＞

当院で2017年4月1日～2020年3月31日の間に、脳梗塞、非外傷性脳内血腫、くも膜下出血、一過性脳虚血発作、もやもや病、未破裂脳動脈瘤で治療した患者さん

＜調査期間＞2026年3月31日までを予定しています。

＜調査内容＞

診療報酬明細書上の傷病名、年齢、性別、入院日、既往歴、脳卒中に関連した診療行為及び時間経過、予後などの情報を収集します。

本研究の研究内容、参加施設名、患者さん向けの資料などにつきましては、研究班ホームページ（J-ASPECT Study、<https://j-aspect.jp>）にて随時公開しております。

＜主任研究者＞

国立循環器病研究センター 院長 飯原 弘二

＜外部機関への研究データの提供＞

上記の診療情報を、次の研究機関と共有して、共同で研究を進めます。取得された診療情報を業務委託先である健康保険医療情報総合研究所（PRRISM）で集積し、必要な情報を抽出した解析用データセットを作成し、研究責任者および分担研究者に配布します。

提供先機関の名称：

- 1.九州大学病院 脳神経外科
- 2.健康保険医療情報総合研究所（PRRISM）

研究責任者の氏名：

- 1.九州大学病院 脳神経外科 准教授 溝口 昌弘
- 2.代表取締役社長 山口治紀

<個人情報の取り扱い>

お名前、住所などの個人を特定する情報については厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、個人が特定できる情報を使用することはありません。本研究で得られた臨床情報およびその抽出口ジックを将来、脳卒中や循環器疾患の研究のために二次利用する場合や、研究計画書を変更する場合があります。その場合は、研究倫理審査委員会での審議を経て研究統括管理責任者の許可を受けて実施されます。同意取得の手続きとしては、オプトアウトの機会を設ける場合などがあります。

<問合せ先> 京都桂病院 脳卒中センター 所長 中嶋 教夫
TEL：075-391-5811(代表)

【ホームページ】 <https://j-aspect.jp/ctgs.php>

2022年6月6日

京都桂病院 脳卒中センター 所長 中嶋 教夫